TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099　FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

TOP コレクション　セレンディピティ
日常のなかの予期せぬ素敵な発見

TOP Collection: Serendipity -Wondrous Discoveries in Daily Life

2023 年 4 月 7 日（金）－2023 年 7 月 9 日（日）

奈良美智《NY Drawing (left); Yogyakarta Cat (right)》〈days 2003-2012〉より 2003–2012 年 東京都写真美術館蔵 ©Yoshitomo Nara

東京都写真美術館では、収蔵作品をより多様な視点でご鑑賞いただけるよう、さまざまなテーマでコレクション展を開催しております。今回のテーマは「セレンディピティ」です。ペルシアのおとぎ話*を由来とするこの言葉には、「偶然と才気によって、予期しない発見をすること」という意味があります。

たとえば、こんな経験はないでしょうか。偶然見つけたポストカードの写真に心が動いたり癒やされて、壁に貼っておいたり、大切に手帳にはさんでとっておいたり。あるいは、撮りためたたくさんの写真を見返してみたら、そのうちの 2 枚が撮影した場所や時間を越えてつながって、それまで気づかなかった何かを発見したり。それはまさしくセレンディピティの産物といえるでしょう。そしてまた、展覧会を見るという行為自体も、予期しない出来事との出会いにあふれた、セレンディピティな体験のひとつです。

本展覧会では、37,000 点以上に及ぶ（令和 5 年 4 月時点）収蔵作品から、「セレンディピティ」をキーワードに、ありふれた日常の何気ない一瞬を撮影した作品などを見ていくことで、写真家たちに訪れたささやかな心の機微を探ります。何年も続く制限された日々のなかで、様々な辛い出来事や不都合な出来事をたくさん経験してきた私たちですが、こうした写真家たちの視点をヒントに、セレンディピティの産物としての癒やしや心の豊かさを回復する種を見つけることができるかもしれません。

＊「セレンディップの三人の王子」

みどころ

1　楽しみ方は幾通りも。探していなかったものが見つかる展覧会

いま世界で起こっている問題を知りたい、アーティストたちの最新の表現を学びたいなど、美術館はさまざまな目的で訪れる学びの場である一方、ふらりと立ち寄った展覧会でなぜか目が離せない作品に出合う、理由は分からないけれど見終わった後に少し心が軽くなるというのも美術館を訪れる醍醐味ではないでしょうか。本展は、その思いがけず心を豊かにする発見や気づき＝セレンディピティに注目した展覧会です。作家の意図を超えた偶発性を持つ写真というメディアだからこそ起きるセレンディピティは、鑑賞者ひとりひとりによって異なり、正解はありません。展覧会を通して自分自身のセレンディピティについて考えることは、日常を少し豊かにする契機となるのではないでしょうか。

2　作家たちが切り取る、日常にある豊かさ

本展は「日常」に焦点を当て、作家たちに訪れたささやかな心の機微に触れる展覧会です。ここ数年世界的なパンデミック、戦争、自然災害など私たちはさまざまな困難に直面しました。これまで以上に自分がどう生きるかを問われているような緊張感や、何かの役に立たなければいけないといった使命感を少なからず感じる日々において、気負いなく日常を見つめ、切り取る作家たちの視線は、一見すると役に立たない豊かさが自分や誰かの喜びにつながっていることに気づかせてくれます。

3　絵本のような図録

出品作品［吉野 英理香〈JOBIM〉2022 年]に写る小鳥の『ジョビン』と、[エドワード・マイブリッジ《犬。駆ける白い競走犬、マギー》〈アニマル・ロコモーション〉より 1887 年]に写る犬の『マギー』がイラストで登場し、会話をしながら作品を紹介する絵本パート（16 ページ）を冒頭に掲載。作品を読み解くポイントがわかりやすく書かれており、幅広い年齢の方におすすめです。

イメージ

4　3 万 7,000 点を超える当館コレクションから代表作や初出品作品など

世界でも希有な写真・映像のコレクションとして知られる東京都写真美術館コレクション。令和 4 年度に新たに 413 点の収蔵を予定し、令和 5 年度の収蔵点数は 37,312 点に及びます。

新旧問わず国内外のコレクションを幅広く紹介する本展では、連続動作の撮影を成功させた 19 世紀末のエドワード・マイブリッジ、没後 40 年を迎え注目度が高まる 1960 年代の牛腸茂雄から現代作家の最新作まで、幅広い時代の作品を網羅し、当館ならではのラインナップをお楽しみいただけます。2019 年の収蔵後初めての出品となり作家所蔵作品とあわせて展示される奈良美智の写真作品や、ドキュメンタリー写真家として知られる北井一夫が日常を写したシリーズなどにも注目ください。

北井一夫 《紙屑が 3 個》〈ライカで散歩〉より 東京都写真美術館蔵 2008 年

展示構成

しずかな視線、満たされる時間

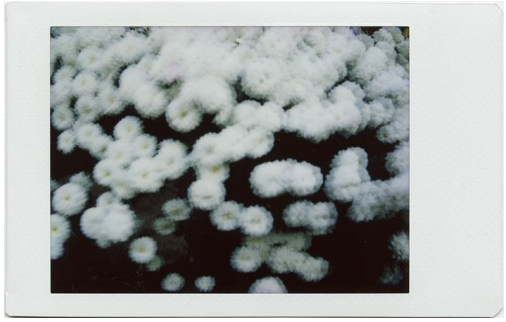
私たちはこの数年、それまでとは全く違った日常を送ることを余儀なくされました。そしてまたそれは、日常とは異なる世界を求めて旅に出ることが自由にできない生活でもありました。

しかし、日常というありふれた世界も、ちょっと視点を変えてみれば、様々な気づきにあふれています。ずっと前からすぐそこにあったのに気づかなかったことの発見は、まさしくセレンディピティな現象として、予期しないタイミングで私たちに訪れます。こうした発見が、この数年の狭まった世界の中での私たちの暮らしを、ただ閉ざされたものではない、これまでとは異なる豊かさのあるものにしているのではないでしょうか。

このセクションでは、世界を切り取ることによって表現する写真というメディアを使って、作家たちが日常のなかのささやかな発見を捉えた作品を紹介します。こうした作品を見ると、それぞれの発見は作家たちに幸せや満ち足りた気持ちをもたらしていることに気づくでしょう。

本展では当館のコレクションに加え、吉野英理香がコロナ禍の外出自粛中に飼っているインコのジョビンをインスタントカメラ「チェキ」で撮影したシリーズを作家より借用して展示します。

出品作家：吉野英理香、牛腸茂雄、北井一夫、島尾伸三、潮田登久子、今井智己



吉野英理香〈JOBIM〉より 2022 年 作家蔵

牛腸茂雄〈日々〉より 1967-1970 年

潮田登久子《冷蔵庫》 1999 年

窓外の風景、またはただそこにあるものを写すということ

「最古の現存写真」とされるニセフォール・ニエプスの《ル・グラの窓からの眺め》は、ニエプスの実験室の窓から外の風景を写したものです。ですが、暗い箱のなかに映る像を何かの形で定着させて記録しようと実験していたニエプスにとっては、窓の外の風景を写したかったのではなく、「ただ写すという行為」自体がその目的だったと言えるでしょう。ですが、このたまたま写った窓外の風景は、「世界最古の

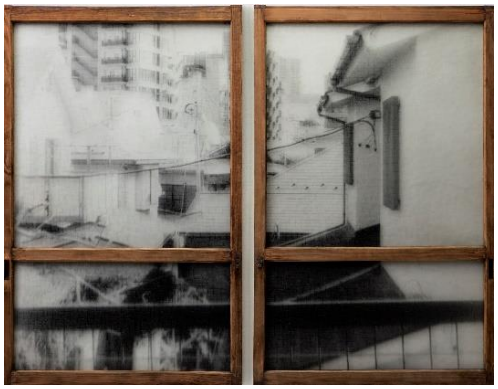
＊所蔵の記載がない作品はすべて東京都写真美術館蔵

写真」として、現在もなお世界中で愛されています。偶然写った窓外の風景に、セレンディピティの力によって現在でも多くの人々が何かを発見しているのでしょう。

ひとつのイメージを目の前にすると、私たちはそこに何かを見出し、そして見た人によってはとても大切な意味を持つことがあります。このセクションでは、作家たちが「ただ、そこにあるものを写しとる」という行為によって得られたイメージが、それを鑑賞する人におこすセレンディピティについて考えてみます。

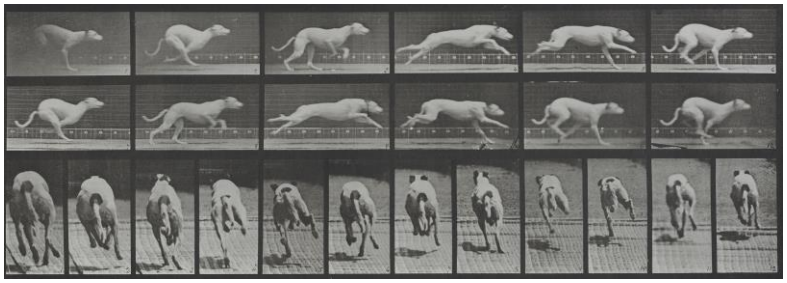
作品に写るイメージを、ただそのまま見るという見方もあれば、イメージから記憶や想像を解きほぐし自分だけの「なにか」に出会ったり、気づいたりすることもあるかもしれません。

出品作家：鈴木のぞみ、佐内正史、葛西秀樹、エドワード・マイブリッジ、山崎博、浜田涼、相川勝



鈴木のぞみ《柿の木荘 2 階東の窓》
〈Other Days, Other Eyes〉より 2016 年

相川勝〈landscape〉より 2019 年



エドワード・マイブリッジ
《犬。駆ける白い競走犬、マギー》
〈アニマル・ロコモーション〉より
1887 年

ふたつの写真を編みなおす

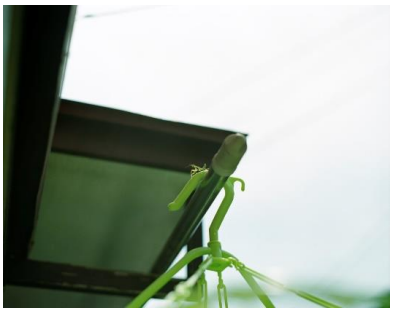
心の中で起きるささやかな衝動により、写真家たちはそのときどきにシャッターを押し、世界を切り取っていきます。そしてその結果膨大な数となった写真のなかから、作品を発表するにあたり作家たちは取捨選択をせねばなりません。その作業の際に、撮影した場所や時間を越えて 2 つの写真が、彼らが全く予期していなかった何かの関係性によって結ばれることがあります。それはまさしくセレンディピティの産物といえるでしょう。写真は、編みなおされることにより、それぞれを別に見た時の意味に加えて、2 つが並ぶことで生まれる意味を帯び、作品としての豊かさを増していきます。

また、それぞれの写真の関係性を想像することによって、鑑賞者は作家の思考に触れることができるかもしれません。

本セクションでは、当館所蔵後初公開となる奈良美智のディプティック（フランス語で二連の絵のこと）作品を展示します。また、それにあわせて作家所蔵の同シリーズ作品も展示します。

出品作家：奈良美智、齋藤陽道、中平卓馬、エリオット・アーウィット

＊所蔵の記載がない作品はすべて東京都写真美術館蔵



齋藤陽道 〈感動〉より 2011 年

中平卓馬 〈日常〉より 1990-1996 年

作品にまつわるセレンディピティ

優れた作品を生み出す作家たちも、みな私たちと同じように日々を生き、毎日を暮らしています。そんな日常のなかでセレンディピティが訪れ、作品制作のきっかけになることもあります。

本城直季は写真を学んでいる学生時代に、たまたま大判カメラを手に取ってみたらしっくりなじむ感覚を感じ、様々な撮影方法を試しているうちに、現在の作品のような表現方法に出会いました。井上佐由紀は、祖父の瞳を撮影したことをきっかけに、生まれたばかりの乳児の瞳の作品を撮り始めました。石川直樹が世界中に冒険に出るようになったきっかけは「いま生きているということ」を実感するためでしたが、その感覚は人ぞれぞれ異なり、また、あらかじめ予測できるものでもなく、予期せずやってきます。

そしてまた、作品を鑑賞するうちに、私たちに思いがけない発見が訪れることもあります。ホンマタカシの独特な手法による作品は、「家族写真」の概念について考えるように自然と鑑賞者に促し、その経過をたどるなかで突然、セレンディピティが訪れます。畠山直哉の作品は、見えているものの認識の仕方について自覚的になりつつ見続けていくと、写真にまつわる様々な仕組みに思い至るでしょう。

出品作家：本城直季、井上佐由紀、石川直樹、ホンマタカシ、畠山直哉

本城直季《東京 日本 2005》〈small planet〉より 2005 年

石川直樹〈Mt. Fuji〉より 2008 年

ホンマタカシ《Tokyo and my Daughter》1999 年

＊所蔵の記載がない作品はすべて東京都写真美術館蔵

出品点数・出品作家

111 点（121 枚組、約 50 枚組、27 枚組、3 枚組×2 点、2 枚組を含む）

22 名（相川勝、石川直樹、井上佐由紀、今井智己、潮田登久子、葛西秀樹、北井一夫、牛腸茂雄、齋藤陽道、佐内正史、島尾伸三、鈴木のぞみ、中平卓馬、奈良美智、畠山直哉、浜田涼、本城直季、ホンマタカシ、山崎博、吉野英理香、エリオット・アーウィット、エドワード・マイブリッジ）

関連イベント

インクルーシブ鑑賞ワークショップ 「見るときどき見えない、のち話す、しだいに見える」を会期中に 3 回開催するほか、担当学芸員によるギャラリー・トーク、親子プログラム、手話通訳付きトークなどを予定しています。日時等は決定次第ホームページでお知らせします。

展覧会図録

「TOP コレクション セレンディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」

A5 変形（W148mm×H148mm、144 ページ　発行元：東京都写真美術館　価格：1,800 円(税込)

イラストにより作品を紹介するものがたりパート、担当学芸員によるテキスト、出品作品図版を掲載

開催概要

展覧会名[和]　TOP コレクション セレンディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見

展覧会名[英]　TOP Collection: Serendipity -Wondrous Discoveries in Daily Life

主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
会期	2023 年 4 月 7 日(金）～2023 年 7 月 9 日(日)
会場	東京都写真美術館 3F 展示室 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
電話	03-3280-0099　www.topmuseum.jp
開館時間	10:00-18:00(木・金は 20:00 まで）入館は閉館 30 分前まで
休館日	毎週月曜日(ただし、5/1 は開館)
観覧料	一般 700 円/大学・専門学校生 560 円/中高生・65 歳以上 350 円 ※小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2 名まで)は無料。 ※オンラインによる日時指定予約推奨

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。
掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。
＊図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
＊図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM　電話 03-3280-0034/FAX03-3280-0033

展覧会担当　武内厚子/山﨑香穂

広報担当　池田/平澤/鈴木 press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により内容を変更する場合があります。最新情報は当館ホームページをご確認ください。